



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2022. 08. 30
NO. 022

グリーンジョブ研修

～未来のフクシマ～

大きく変化

福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)



なんとその広さは東京ドーム10個分以上!

18万㎡の敷地内に設置した20万kwの太陽光発電の電力を用いて、世界最大級となる10万kwの水素製造装置で水の電気分解を行い、毎時12nm³/hの水素を製造、貯蔵・供給。FH2Rで製造した水素は主に圧縮水素トレーラーやカードルを使って輸送し、福島県や東京都などの需要先へ供給する予定。

福島県浜通り地域等では、東日本大震災及び原子力災害によって失われた産業を回復するために、国家主導の「福島イノベーション・コースト構想」が進められています。ここでは新たな6つの産業「(廃炉) (ロボット・ドローン) (エネルギー・環境・リサイクル) (農林水産業) (医療関連) (航空宇宙)」を中心に開発を進め、多額の税金が使われています。しかし、これらの税金は本来なら復興支援や被害を受けた地元企業のために使われるべきはさすが、実際はそうではありません。多くの大企業が補助金目当てに福島に進出し、あたかも復興に携わっていると豪語しているのも事実です。



左側の建物は東日本大震災原子力災害伝承館、右側の建物は双葉町災害交流センターどちらも東京電力の資本が入っている。



福島水素エネルギー研究所フィールドに携わる企業も本社が首都圏にある大企業ばかり。

復興支援に使われるべき税金が私たちの知らないところで大企業に流れている現実を皆さんはどう思いますか？

何事にも裏がある!

それは国も企業も変わらない!

福島県